

慶應義塾大学 2019年度新入生歓迎行事

上杉満代舞踏公演 命

「われわれは生きているときに、何をいったい食べたらいのか。
もっとも理想的なものは、命を削って、命を食べるんですよ。しかし
大変だ。命を食べるなんていうのはね」(大野一雄『稽古の言葉』)

5月24日 ときの変化の真っ只中。場は日吉キャンパス来住舎。
ガラスの子宮。O氏のこの言葉を腹に入れるべく。

我々は各々の試練と欲望を携え結集する。踏むこと。打つこと。
舞うこと。奏でること。ご飯ですよ。

2019年 卯月 上杉満代

[出演]

舞踏 — 上杉 満代

音楽 — 曾我 傑
多田 正美

2019年 5月24日 | 金 | 18:30開演 (17:30開場)
May 24th Friday, 2019 18:30 Start (Doors Open 17:30)

入場無料

慶應義塾大学日吉キャンパス来住舎イベントテラス

横浜市港北区日吉4-1-1

東急東横線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車

ADMISSION FREE

KEIO UNIV. HIYOSHI CAMPUS, RAIOSHA

4-1-1 HIYOSHI. KOHOKU-KU, YOKOHAMA; TOKYU TOYOKO LINE HIYOSHI STA.

慶應義塾大学 2019年度新入生歓迎行事

上杉満代 舞踏公演 命

UESUGI Mitsuyo

BUTOH PERFORMANCE

INOCHI

上杉 満代 UESUGI Mitsuyo

1950年福岡に産まれる。幼少よりクラシックバレエを学ぶ。68年谷桃子バレエ団に在籍後71年より舞踏家大野一雄氏に師事。映画「O氏の死者の書」に参加。75年上杉満代舞踏ソロ「紅蓮夜曲」にてデビュー。その後、現在に至るまで極私的舞踏ソロの公演を主流として活動を続ける。1987年～1990年渡仏。カトリーヌ・デュベレス、ベルナルド・モンテのスタジオD.Mに参加。パリ国立市民劇場などにて3作品に出演。帰国後はソロ作品「彼女」から「マダムメランコリア」「マドモアゼルメランコリア」「ベイビーメランコリア」メランコリアシリーズ作品発表。大野一雄フェスティバル他欧州、米国等に招聘多数。2009年連続舞踏公演「ベイビーメランコリア夢六夜」にて第41回舞踏批評家協会賞を受賞。現在、明治学院大学文学部芸術学科「舞台芸術論」非常勤講師。



曽我 傑 SOGA Masaru

15歳頃まで音楽の基礎を祖父と父から学ぶ。1970年代前半、東京アメリカンセンターにてテリー・ライリー、ニューヨークにてジョン・ケージに「現代の作曲と可能性について」を、北村実（早稲田大学文学部哲学科）の私塾にて「唯物弁証法、科学的社会主義論、マルクス・エンゲルス全著作比較試論」などを学ぶ。73年頃より佐野清彦、多田正美らと「GAP」の活動を開始。70年代後半より劇場公演に活動をフォーカスし、ニューヨークのラ・ママ劇場、ロンドンのICAスペース等での音響、照明を中心に劇場技術を手掛ける。

多田 正美 TADA Masami

ピアノを13歳頃に独学で始める。自由に作曲をしたら、自分の生まれた頃のポーランドで生じた学派だったと後に知る。1974年からのGAP即興活動。75年小杉武久音楽教場に通う。78年には1本の樹を毎日同じ場所から撮影、1年間で365枚撮る。80年代前半ピアノ製作に取り組む生活を送り、三遠州地帯の古き祭りを巡る。86年から双ギャラリーにて、コラボ作品とSound Encounter即興を始める。99年文化庁芸術家派遣で1年間オランダに滞在。その後、ネパールの古き観音山車祭りに通い、2006年カトマンズ及びパタンにて「Art Full Nepal」に参加。



演奏する曽我傑（右）と多田正美

音響・照明：西村 龍積、高松 真樹子

写真：高島 史於、小野塚 誠

主催：慶應義塾大学日吉教養研究センター日吉行事委員会 (HAPP)
慶應義塾大学アート・センター

協力：慶應義塾高等学校

コーディネーター：小菅 隼人

問合せ：慶應義塾大学アート・センター

108-8345 東京都港区三田2-15-45 Tel 03-5427-1621

Contact: KEIO UNIVERSITY ART CENTER

Tel 03-5427-1621

email moris@art-c.keio.ac.jp

<http://art-c.keio.ac.jp>

